

### 3 . 阿蘇草原再生の目標

かつての阿蘇の草原には、多様な動植物を育む豊かな草原環境があり、草原と結びついた固有の地域文化が息づいていました。集落のほとんどの人が草原とかかわり、草原からの恵みをうまく利用して地域社会が成り立っていました。

しかし、第二次大戦後、日本経済の高度成長が進むにつれ、阿蘇の草原利用の形態も大きく変化しました。特に昭和 30 年代を境に社会構造が急激に変化し、人々と草原とのかかわりが薄れ、同時に草原環境にも面積の減少や質の低下などの多くの問題が出てきました。

千年もの長い間続いてきた草原利用の原形は、昭和 30 年代ごろまで見られた草原と人の暮らしのつながりにあるといえます。昭和 30 年代の社会に戻ることはできませんが、改めて先人の知恵と技術に学び、時代に合わせた形で草原の恵みを受け続けられる仕組みを創り出すことにより、草原環境の再生を目指します。

阿蘇草原再生の目標として、まず大きな「目標」をスローガンとして掲げるとともに、保全・再生された草原のイメージを「目指す姿」として示しました。さらに、自然環境、農畜産業、地域社会の 3 つの分野に分けて、それぞれ再生の「分野別目標」を設定しました。3 つの分野を相互に関連させながら、地域内外の様々な人が連携し、あらゆる力を結束して、阿蘇草原再生を実現していきます。

< 目標 >

草原の恵みを持続的に活かせる仕組みを現代に合わせて創り出し、  
かけがえのない阿蘇の草原を未来へ引き継ぐ

( 目指す姿 )

暮らしに恵みをもたらす草原

地域の人々の暮らしと草原が密接に関わり、草原の恵みを持続的に享受できる仕組みが動いている



人と生き物が共生する草原環境

盆花に象徴されるように、多様な動植物が育まれる豊かな草原環境が保たれている



< 分野別目標 >

地域内外の様々な人々の連携と参加  
による取り組みの推進

美しく豊かな草原の再生

自然環境の保全と再生は阿蘇草原再生の直接的な目標です。他に類を見ない広大な草原景観の保全を旨すると同時に、地域の固有種や希少種を含む多様な動植物が生息・生育する、健全な草原生態系を再生していくことを目指します。



野草資源でうろう農畜産業の再生

阿蘇の草原は農畜産業を中心とする地域の生産活動の資源として利用されることにより、維持されてきたものです。利用が減っている野草資源の価値を高めるとともに、それをうまく活用することで収益が上がり、草原環境の持続的な維持管理ができるよう、阿蘇ならではの農畜産業を再生していくことを目指します。



草原に囲まれて人々が生き生きと暮らす地域社会の再生

阿蘇草原再生の取り組みは、地域社会全体で草原の恵みに新しい価値を見出し、循環型の資源利用を基盤とした持続可能な地域づくりを進めることをも意味しています。このようなプロセスを通じて、同時に地域文化の見直し、自信や誇りにつなげ、活力ある地域社会を再生していくことを目指します。

